

健

ある日突然、片方の耳が聞こえなくなる突発性難聴。ストレスがきっかけで発病することが多く、患者数は着実に増えている。原因がよくわからず決め手となる治療法もまだないが、放置しておくとも一生聴力を失うことになりかねない。異常を感じたら早めに耳鼻科で専門医に診てもらおう。

片耳が突然聞こえなく

四十代の会社員Aさんは仕事が忙しく精神的にもストレスを感じていた。ある日の午前、勤務中に突然、右耳で耳鳴りを感じた。「そのうち治るだろう」と仕事を続けていると夕方にはめまいも始まった。内科を受診して薬をもらうとめまいは二、三日でおさまったが軽い耳鳴りは続いた。

聞こえづらいので内科の医師に相談、耳鼻科の受診を勧められた。聴力検査の結果、突発性難聴であることがわかった。

厚生労働省研究班の調査によると、二〇〇一年の突発性難聴の患者数は約三万五千人で、人口百万人当たり約二百七十五人。一九七二年の四千人、八七年の一万六千七百人、九三年の二万四千人と比較すると、着実に増え続けている。

男女差はなく四十一〜五十代の発病が多いが、二十歳以下の若年層や七十歳以上の高齢者があることもある。東京通信病院

突発性難聴

ストレスきっかけ?

(東京・千代田)の室伏利久耳鼻咽喉(いんこう)科部長は「ストレスの増加が患者増の二つの要因だ」と説明する。

突発性難聴の原因は不明で確立した治療法はまだない。一般的に「ウイルス感染説」か「内耳の血液循環障害説」のどちらかの立場で治療する。

ウイルス感染説は内耳の蝸牛(かぎゅう)の中の神経細胞がウイルスに感染したと想定したもの。蝸牛の炎症を抑えるために副腎皮質ホルモンなどのステロイド剤を投与することが多い。効果が上がらなかつた人に対しては「ステロイド鼓室内注

こんな場合に突発性難聴の可能性がある

- ・何の前触れもなく突然片方の耳が聞こえなくなった
- ・耳鳴りが難聴の発生と同時に、または前後に起きる
- ・めまいや吐き気、嘔吐(おうと)を伴うことも。めまいは繰り返すことはない
- ・発病前に寝不足や多忙な生活が続く、肉体的・精神的に疲労がたまっている

放置危険、早めの受診肝心

入」という新しい治療法を試みることもある。

鼓膜を通して注射針を鼓室(中耳)に差しステロイドを注入する治療法で、ステロイドが蝸牛と中耳の間の膜を透過して蝸牛に入る。高濃度なステロイドを蝸牛に局所的に入れることができる。

蝸牛の神経細胞に栄養分を送り込む血管に循環障害が起きていると考えられるのが血液循環障害説だ。血管を拡張させるプロスタグランジン剤や血

流を良くする低分子デキストランを点滴することが多い。血液中の酸素を多くする高気圧酸素療法や血液の流れを良くする星状神経節ブロックなどの治療法もある。

突発性難聴を発病して一カ月以上たつてから治療を始めると、治療成績はかなり悪くなる。早期治療が大切で発病後一〜二週間内だと完治する可能性も高い。笠井耳鼻咽喉科クリニック(東京・目黒)の笠井創院長は「突然耳が聞こえなくなったら早めに耳鼻科の診断を受けてほしい」と話す。

患者は発病前に精神的・身体的にストレスや極度の疲労感を感じていることが少なくない。治療と並行して十分な休養をとることも早く回復するにはとても重要だ。

